

1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値を47.2以上にする。

3. 指標にむけての取組

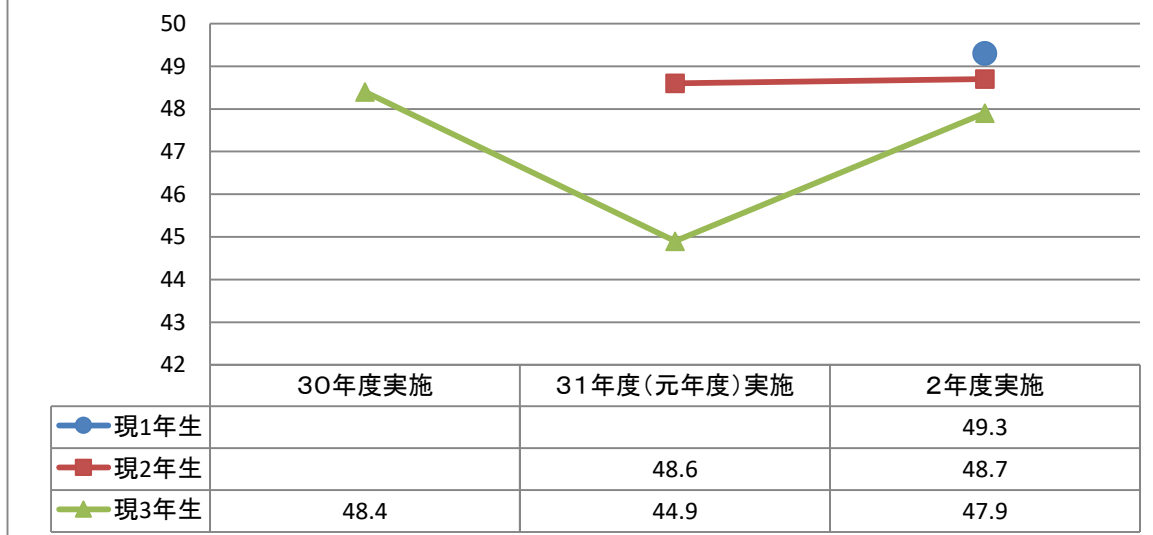
- 「学びの振り返り」ができるように、「めあて」と「まとめ」を提示した授業づくりの実施。
- 思考力・判断力・表現力の育成をねらいとした授業公開。
- 基礎・基本の定着を図るためのモジュール学習や補充学習の実施。

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	28年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度
本校(A)	47.8	48.3	48.2	46.6	48.6
嘉麻市(B)	47.3	47.9	49.3	48.8	48.6
(A)－(B)	0.5	0.4	-1.1	-2.2	0
標準偏差値との差 (A)－(50)	-2.2	-1.7	-1.8	-3.4	-1.4

各学年の推移



5. 各学校における分析

- 「めあて」の掲示はほとんどの授業できているが、「まとめ」との整合性がとれていなかったり、生徒が学習に対する興味や意欲を高めたりするような「めあて」づくりになっていない。
- モジュール学習や補充学習の方法や目的が全校で共通理解していない。
- 家庭学習の未定着等の課題。
- 3年生は昨年度に比べ学力向上が伺える。その要因は、基礎・基本の反復学習を計画的に取り組ませたことにあると考える。

6. 各学校における今後の取組

- 「めあて」「見通し」「学習活動」「まとめ」「振り返り」を位置づけた授業と校内研修の実施。
- 一人一授業の授業公開(参観授業)を実施し、お互いの授業を評価し合う取組の実施。
- モジュール学習や補充学習の目的を全職員と生徒で共通理解を図り、実施後の生徒アンケートを取り、評価・改善していく。
- 家庭学習の充実を図るために、考査前の学習計画表の工夫(保護者も参加する)や、通信やメールで学校の学習の取組を家庭にお知らせする。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した思考を伴う「書く(かく)活動」や目的のある「話し合い活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「学力向上に向けた授業づくりの8つのポイント」や「書く活動ポイント9」を活用することができるように指導助言や支援を行ったりする。また、山田中学校が目指す1単位時間の授業スタイルについて指導助言を行う。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定したりする。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。